子供の頃は，テレビから聞こえてくる言葉は，日常の話し言葉とは違う特別の言葉だと思っていました．本を音読したり，演劇のせりふを言ったりする時なども，日常語とは違う特別の言葉を使うのだと思っていました．高校２年生の時，初めて東京に旅行しましたが，街で人々がテレビの中と同じようにしゃべっているのを聞いて新鮮な感動を覚えました（さすがにその頃には，自分たちの言葉の方が違っているのだとわかっていましたが）．

私は鹿児島県の出身です．父も母も純粋な鹿児島人ですから，高校卒業まで自宅では鹿児島弁の世界で過ごしました．標準語を自由に使いこなすためには，頭で考えるときにも標準語を使って考えています．帰省したときには当然鹿児島弁でしゃべりますから，頭の中も鹿児島弁で考えることになります．学生時代は鉄道を使って帰省していましたので，熊本を過ぎるあたりから，「そろそろかごっまべんにせんなあね」という具合に頭の中を切り替えていました．最近は飛行機で帰るのですが，なかなか頭の中を切り替えるのは難しいです．実家に着いてから１時間ぐらいはなんだか変な気分でしゃべっています．

「バイリンガルといわれる人たちもきっとそうなんだろうなあ」と勝手に納得している次第です．方言の場合には文字が同じですから二カ国語を使い分けることとは質が違うのかも知れませんが，ヨーロッパ系の言語はみんな同じ文字を使っていますし，もしかしたら標準語と鹿児島弁との違いはスペイン語とポルトガル語との違いよりも大きいかも知れません．鹿児島でも島嶼部の言葉はさらに違っていて，奄美大島出身の女性と結婚した高校時代の友人は，家庭での会話には標準語を使っています．日本人とフランス人が英語で会話をするようなものですね．

なんだかまとまりのない文章になってしまいましたが，いろいろな国の言葉を知ることはとてもおもしろいと思います．外国に行ったとき，その国の言葉を多少なりとも知っているのとそうでないのとでは，得られる感動に雲泥の差があるのではないでしょうか．現在私はフランスで旅行を楽しむために（特にフランスの田舎を旅行したいので），フランス語と日々格闘しているところです．

英語はたいへんだ

小川 昭二郎

私が始めて外国語の本に興味を持ったのは，中学生の時でした．同じクラスに M 君という仲良しの友達がいたのですが，家にもよく遊びに行きました．彼のお父さんは外国航路の商船の船長で，家には珍しいものが沢山あったのです．私が特に気に入ったのは，“Popular Science”という子供向けの科学雑誌で，遊びに行ったときは必ず借りて帰りました．多分，M 君のお父さんは，息子に科学に興味を持ってもらいたくて外国から取り寄せていたのだと思います．しかし，彼はほとんどこの雑誌に興味を示しませんでした．その代わり，赤の他人の私がこの本の影響を受けて科学の道に進むようになったのです．

宇宙，自然，機械などの写真や絵が載っていたのは覚えているのですが，書かれていた英語についてはあまり記憶がありません．つまり，この本を通して英語の勉強をしようなどとは全く考えず，ただ自然や科学技術の面白さを感じていたのだと思います．

高校生になってから，ますます理科が好きになっていったのですが，同時にまた，当時の貧しい日本を救うには科学技術しかないと信じていたようです．したがって，語学などというものは，生産には本来関係の無いもので一生懸命やるものではないなどという生意気な考えをしていたようです．

当然，英語の勉強に身が入らず，大学受験にも失敗してしまいました．浪人中は心を入れ替えて，苦手な英語の勉強に時間をかけることにしました．ただ単語を暗記していても面白くないので，好きな推理小説を英語で読むことに専念しました．この訓練は，現在，化学の専門書や文献を読むことに大いに役立っていると思います．つまり，なるべく辞書を使わずに１行ごとに，なるほど，なるほどと思いながら読んでいく楽しみは当時の勉強で身についたものだと思います．

私はもともと無口な少年で，人と話をすることが苦手で，まして，英語で話をするなどとは考えただけでも恐ろしかった．当然，会話の訓練は出来るだけ避けてきました．しかし，研究を仕事とするようになってから，外国に行って国際学会で発表しなければならなくなってしまった．そこから私の地獄が始まったのです．

そのつらい話をここでする積りはありませんが，好きな科学の研究だけしていればよいというわけでは決してないということは，子供のころは考えもしなかった．君たちも，これからは，どのような職業につくことになっても，国際語である英語の読解力と会話力は必ず必要になります．中学生の時からしっかり勉強しなければなりません．大学生になってからでは遅いのです．

しかし，それ以前に，自分の考えを的確に相手に伝える訓練が必要です．外国では，ディベートの訓練を子供のうちからやっていると聞いています．人と言い争いをすることはいやなものです．しかし，信念をもって自分の考えを相手に伝え，また，相手の言うことをしっかりと聞くことがディベートなのです．とくに，相手の言うことを聞いて理解するということは大事です．

わたしは，大学で授業をしていますが，学生から質問がないときはさびしいものです．全員が私の講義をすべて理解しているはずがないのです．それなのになぜ質問をしないのでしょうか．また，ゼミナール形式で学生に発表させ，それについて討論する授業があるのですが，そこでも，あまり質問や自分の考えをのべることをしない学生が多い．彼女たちは恐らく世の中に出てから苦労すると思います．私は時々中学校の授業を廊下から覗くことがあるのですが，活発に意見を言っている様子を目にして頼もしく思っています．また，自主研究などでは，自分たちで意見を出し合って進めていくということも聞いています．中学校時代から自分の意見を頭の中で組み立て，また，相手の話をしっかりと理解しようとする訓練がされていれば，外国語の会話もそれほどむずかしいものではないと思います．

私は大学の外でいくつかの委員会の委員長をしていますが，なるべく口数の少ない委員から意見を言ってもらうように心がけています．討論が活発になれば委員会も楽しいものです．

外国語について書くようにということでしたが，話がそれてしまいました．英語を母国語としない日本人は国際的に不利だなどと言っていられない時代がもう来ています．帰国子女学級の子供たちと仲良くすることでもよいから，外国語を恐れない，むしろ楽しむようになってもらいたい．

しまった．大学生のために書く積りが中学生向けのお話を書いてしまった．もう後の祭り．ごめんなさい．

留学でわかる英語の力

藤原 葉子

オーストラリアの南端メルボルンで，娘と夫とともに２年間の留学生活を過ごした．モナッシュ大学の附属病院に併設されたベーカー医学研究所は，心血管系疾患の基礎研究では有名なところで，博士を取得して娘を出産した後の